

了の窓



今年、絵金こと絵師金蔵が生まれて20年目の節目の年にあたります。それを記念して、高知県立美術館・絵金蔵・香美市立美術館の三館において、それぞれに絵金の展覧会が開催されます。

絵金は文化9年（1812）、土佐の城下に髪結いの子として生まれました。子どもの頃から絵の才能が認められ、18歳の時、参勤交代のお供として江戸に上がり、狩野派に学びました。

帰郷後、25歳の若さで土佐藩の御用絵師に上り詰めますが、33歳の時、鷹作事件に巻き込まれ、城下追放、一介の町絵師として生きることになりました。明治9年（1876）65歳でその生涯を閉じるまで、屏風絵や絵馬などたくさん作品を世に出しています。

絵金生誕200年記念 絵金とその時代展 ～闇からの伝承～

11月10日（土）～12月16日（日）



▲「義経千本桜 すしやの段」絵金派
西本町3丁目町内会 所蔵

て、絵金、そして同時代に活躍した絵師の屏風絵と共に、さまざまな資料を展示します。

絵金の屏風絵を、夏祭りなどで目にする機会がたくさんありますが、その内容については、詳しく知る機会が少なかったのではないのでしょうか。今回の展示では、絵の内容について分かりやすい説明をつけることで、これまで以上に深く絵金を味わっていただけるような展示を行います。

他にも、幕末の土佐を襲った天保の大地震を絵金が描いた『絵本大変記』（複写）や、当時の年中行事などを描いた『土佐年中風俗絵巻』（複写）、幕末の土佐のお城下の地図『天保元年高知之図』（複写）などを展示していますので、幕末の土佐の人々の生き生きとした暮らしを身近に感じていただけるようになっていきます。

秋の穏やかな季節の中、絵金の生きた時代へタイムスリップして、美術館の中を一緒に楽しく歩いてみてはいかがでしょう？

※詳しい内容や募集要項は、後日学校等を通してチラシを配布します。

図書館だより

市立図書館



第66回読書週間

ラザ

新着本の紹介(物部分館)

啄木名歌の謎を解くなぜ、三行書きか

吉井勇記念館だより

【期間】10月27日（土）～11月9日（金）

【標語】ホントノキズナ

図書館では、読書週間に合わせて例年のように『おはなし会』を計画しました。たくさん参加をお待ちしています。

☆子どもと本をつなぐボランティア講座（本館）

【日時】11月10日（土）13時30分～15時30分

【場所】図書館本館 2階
【内容】読み聞かせの仕方、乳幼児から小学校中学年を対象とした絵本の紹介

【講師】田島真紀さん・香川明子さん（以上、高知こどもの図書館）

【問い合わせ先】

本館 ☎53・0301

☆文化展おはなし会

【日時】11月17日（土）

1部 10時30分
2部 13時30分

【場所】奥物部ふれあいプラザ

おすすめの1冊



幸せな私のはじめかた

（作：宇佐美百合子）

作家でありカウンセラーである宇佐美百合子さんの著書の中でも、特に大切に読み続けているこの一冊は、少し心が折れそうな時、この本を開き静かな中で読んでみると、ふしぎと心が落ちついてくるのです。ダーウィンやゲーテ、トーマスエジソンやニーチェ、孔子などの短い名言の中にある深い思いや意味が心の中にストレートに入ってきます。日々頑張っているあなたにお薦めしたい一冊です。

バアバ（物部町）

あわら観月の夕べ

9月1日にあわら市で開催された第12回あわら北潟湖畔観月の夕べへ、香美市姉妹都市友好都市交流推進協議会が主体となって5人の訪問団が参加しました。香美市の参加は4回目で、香美市ブースで、ユズやしょうがの関連商品が販売されました。また、シカドッグが初めて販売され、新たな香美市の味覚が姉妹都市に届けられました。



姉妹都市から刃物まつりに参加！

10月20日・21日に開催された第31回刃物まつりに、姉妹都市福井県あわら市訪問団（7人）と姉妹都市北海道積丹町訪問団（9人）が、参加しました。あわら市の参加は4回目、出店したあわら湯けむり市では、会場で打ったばかりの手打ちそばに行列ができていました。積丹町の参加は15回目となり、積丹町の北海物産市場では、海産物などの販売が行われ、大勢のお客さんでにぎわいました。



吉井勇記念館では、吉井勇と交友のあった歌人石川啄木についての講演会を開催します。参加無料

【日時】11月17日（土）13時30分

12時50分より、学芸員による館内案内・展示解説があります。（要入館料）

【場所】猪野々集会所（吉井勇記念館）

【講師】西郷竹彦氏（文芸学者、児童文学研究者、ロシア文学翻訳家）

【送迎バス】香美市役所本庁舎前より、市役所香北支所前経由で、送迎バスを運行します。※要予約

行き 本庁舎前12時発（香北支所前12時20分）
帰り 記念館15時50分発

石川啄木（いしかわたくぼく）は明治19年（1886）に岩手県に生まれ、1902年に、文芸雑誌『明星』に掲載された『一握の砂』が、1909年に『一握の砂』を出版しましたが、1912年肺結核のため東京で永眠。第二歌集『悲しき玩具』は没後出版されました。



問い合わせ先

吉井勇記念館

☎58・2220